

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 7 日現在

機関番号：34428

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25870944

研究課題名(和文) 中世山王神道をめぐる言説・靈験譚の研究

研究課題名(英文) A study on the statements and miracle stories about medieval Sanno-Shinto

研究代表者

橋本 正俊 (HASHIMOTO, MASATOSHI)

摂南大学・外国語学部・准教授

研究者番号：30440655

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：中世の山王神道に関わる資料を継続して調査し、そこに見られる言説や靈験譚を中心に整理を行った。特に、文学研究において重要となる縁起説や本地仏に関する説を整理することで、それらの成立と普及の様相について、またそこから説話が形成され展開していく過程について解明を進めた。さらに、中世の山王神道を考察する上で欠かせない資料であり、かつ説話集としても知られる『日吉山王利生記』『山王絵詞』の諸本を調査し、本文を比較し検討することで、両書の説話群の特質について解明を進めた。

研究成果の概要(英文)：This study investigated the literature and materials regarding Sanno-Shinto in the medieval period of Japan to classify the statements and miracle stories included in them. A special focus was placed upon the classification and analysis of theories of Engi and theories of Honji, which provides an important basis for the study on Japanese literature. By classifying and analyzing those theories, this study tried to clarify how the theories were born and spread, and how Setsuwa tales were created from those theories. In addition, by making a comparative investigation of the texts of "Hie-Sanno-Rishoki" and "Sanno-Ekotaba," which are collections of Setsuwa tales indispensable for the study on Sanno-Shinto, this study tried to reveal the features characteristic of these Setsuwa tales.

研究分野：中世文学

キーワード：山王神道 縁起 日吉山王利生記 山王絵詞

1. 研究開始当初の背景

山王神道は、比叡山山麓にある日吉大社の祭神日吉山王を中心とする神道であり、日本思想はもちろん、政治・芸術に与えた影響は大きい。中世には神仏習合思想のもと、山王神道をめぐって、様々な言説や靈験譚が生まれ出された。それらは、伝承を記録した書物の他、多くの文芸・絵画資料に見出せる。

そのため、山王神道については、思想史や歴史を中心とした研究の蓄積があったが、特に文学研究において見過ごせない縁起説や本地仏に関する言説などについては、未整理の状態であり、研究が停滞していたと言える。

2. 研究の目的

上述の不足を補い、研究環境の一層の整備を図るべく、本研究では中世山王神道関係の資料を調査し、言説や靈験譚を収集・整理し、検討を加えることで、諸資料におけるこれらの意義・背景を明らかにすることを目的とした。そのために、具体的に次の4つの課題を掲げた。

(1) 山王神道関係資料の整理

山王神道の伝書の調査と検討

山王神道をめぐる言説の整理・データ化

(2) 「山王靈験記」諸本の整理

「山王靈験記」諸本の収集と検討

「山王靈験記」収載の靈験譚のデータベース化

(3) 文学作品を中心とする山王神道の言説・説話の収集・整理

(4) 以上(1)～(3)の成果に基づく諸言説の整理と検討

(1)については、前掲の公刊物や学術雑誌において、これまで紹介されてきた資料をまずは活用する。しかし、その他にも注目すべき資料で未紹介のものも多数あるため、直接所蔵機関に赴き、資料を閲覧し、場合によっては撮影・複写する必要もある。さらにそれらをもとに、諸言説を抜き出し、整理してゆく。その際に、特に山王神道において重要な、縁起説(神社・祭神の由来を説く言説)・本地説(祭神の本地仏をめぐると言説)を中心に取り上げる。極めて豊かで特色ある縁起説・本地説が、文芸・絵画作品にもとりわけ大きな影響を与えているからである。

(2)については、「山王靈験記」には複数の伝本があり、代表的なものが、妙法院蔵『山王絵詞』と群書類従所収『日吉山王利生記』である。互いに共通する靈験譚を一部含むものの、独自の靈験譚も多く収録し、また構成・配列も異なるため、それぞれの前後関係・成立年代が問題となってきた。そこで、先行研究を参考に諸伝本を調査・比較する。また、本文のテキスト化により諸本比較を容易にし、さらにそこで引かれる説話や固有名詞などのデータベースを作成する。

(3)については、まずは公刊されている資料を対象に、既成のテキストデータベースや索引を活用して進める。その上で(1)と併せた

データベースを作成する。

以上の成果に基づいて、(4)諸言説を比較し検討することとなる。このことにより、(1)～(3)の資料について、とりわけ「山王靈験記」の成立や、「山王靈験記」や文学作品中の山王関連の言説・靈験譚の意義・背景を明らかにしていく。

3. 研究の方法

上述の目的のため、次の3つの方法を採用した。

(1) 山王神道関係資料の整理

山王神道の伝書の調査と検討

山王神道の伝書には、まだ本文が公開されていないものが多数ある。これらの資料を所蔵機関に赴いて、閲覧・調査することが必要となる。主要な機関として、叡山文庫(大津市)をはじめとする天台関連寺院の文庫や、早稲田大学教林文庫などのまとまった山王信仰・天台宗関係の資料を蔵する機関があげられる。これらの機関に継続して赴き、資料の閲覧・調査を行う。原本の閲覧が困難な機関や資料については、写真版などを閲覧申請し、可能な範囲で本文確認を行うこととする。また重要な資料については、撮影や複写の申請を行い、手許に資料を備えることで、の研究を進める。

山王神道をめぐる言説の整理・データ化

で調査した資料をもとに、縁起説・本地説を中心に、言説を抜き出し、整理してデータ化を進める。また、すでに公刊されている資料については、それらを活用して同様に言説の整理・データ化を進める。

(2) 「山王靈験記」諸本の整理

「山王靈験記」諸本の収集と検討

前述のように、「山王靈験記」には、一般的に利用される妙法院蔵『山王絵詞』・群書類従所収『日吉山王利生記』の他、諸本がある。先行研究により、それらの整理がなされているため、これを参考にして調査を進める。上の二本は翻刻があるが、他の諸本は未紹介であるため、これらの調査を行う。さらに本文の校異を取ることで、本書の本文を校訂することが可能となり、校訂本文を作成することで、のデータベース化の準備を整える。

「山王靈験記」収載の靈験譚のデータベース化

の成果をもとに、本書に引かれる言説、及び固有名詞などのデータベースの作成を進める。データベースは、作成にも使用にも簡易なようにExcelを使用する。前述のように前掲の二本は構成や配列が大きく異なるため、それに配慮してデータベースを作成するように努める。

(3) 文学作品を中心とする山王神道の言説・説話の収集・整理

文学作品については、とりあえずは公刊されている資料を対象として収集・整理を行う。例えば日本古典文学大系(岩波書店)のように、既成のテキストデータベースが備わるも

のや、索引が付されている作品も多数公開されているため、これらを積極的に活用する。現在成果が一部公開されている「説話データベース」(説話と説話文学の会)も活用する。もちろん、影印・翻刻を問わず、関連するテキストについてもこれを対象とし、(1)の調査においても関連する資料を対象に、収集・整理を行う。それらをもとに、(1)と同様のフォーマットでデータベースの作成を進める。

このうち、(3)については特に調査の必要はないため、初年度から作業に取りかかった。(2)については、まずは公開された翻刻をもとに本文をデータ化し、諸本調査をしながら本文の校異を取る作業を進めた。同時に、データベースの作成も進めた。(1)については、初年度・二年度に の調査を中心に進め、最終年度に の作業を中心に進めた。

(4)以上(1)~(3)の成果に基づく諸言説の整理と検討

以上の(1)~(3)の作業を進めつつ、そこから得られた知見をもとに、中世山王神道をめぐる諸言説や靈験譚について、分析を行う。十分に資料の性質や本文の特性に注意を払いながら、個々の情報、中でも重要となる縁起説や本地説を中心に整理し位置づけをするように努める。そこから、それらの説の成立と普及の様相について、また説話が形成され展開していく過程について解明を進める。

4. 研究成果

上述の方法に基づき、以下の通りの成果を得た。

(1)については、特に叡山文庫(大津市)や早稲田大学図書館教林文庫を中心とした調査を継続的に行った。その結果得られた資料をもとに、縁起説・本地説を中心に諸言説の整理・データ化を進め、研究に活用できる形に整えた。

(2)については、諸本や関係する資料の調査を行い、これまで知られていなかった宮内庁書陵部蔵の一本や、古書目録に載る一本を知ることができた。これにより諸本の異同を確認し、本文を検討することで、両資料を十分に研究に活用することが可能となった。

(3)については、必要な言説・説話を収集し、研究に利用しうべくデータベース化を進めた。これについては完成といえる段階ではないが、今後も引き続き充実したものにすることができる。

以上の成果をもとに、(4)の整理と検討を行った。その結果として、前述の通り、中世に於ける山王神道をめぐる諸言説の成立と普及の様相について、またそこから説話が形成され展開していく過程について、さらにはその説話が文学作品に取り入れられ、また説話集の形で纂輯される過程について、解明を進めた。その成果の一部を、以下の通り、学会発表・研究論文などとして公表した。

まず、新たに見出した中京大学図書館蔵の『日吉山王参社次第』を紹介し、本資料をも

とに、信長の焼き討ち以前の中世の日吉社の空間を捉えることが可能であることを指摘し、またそこから中世日吉社をめぐる言説のありようについて論じた。

また、延慶本『平家物語』にみられる日吉山王縁起を取り上げ、これまで同時代の山王信仰のあり方を十分に踏まえずに検討されてきたことを指摘し、諸資料をもとに延慶本成立当時の山王信仰のあり方と、当時の諸言説・縁起説との関わりについて論じた。

同じく、『源平盛衰記』にみられる日吉山王縁起も取り上げた。そこでも中世に流布していた山王信仰をめぐる言説・説話との関わりから検討し、『盛衰記』の取り上げる山王縁起の特徴について論じ、それらが中世において議論となった言説であったことを明らかにした。

次に、『日吉山王利生記』『山王絵詞』に見られる複数の靈験譚が「夢記」と密接な関わりにあることを指摘し、「夢記」という形で靈験記に収録することで、靈験譚の出処を確認する機能があることについて論じた。そしてそこから両書の成立の背景についても言及した。

また研究により得られた知見を、共同研究を進める「源平盛衰記全釈」研究会の議論にも反映させた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

橋本正俊「中世日吉社の言説と空間」勉誠出版『アジア遊学』174号、査読無、2014、pp.40-53

〔学会発表〕(計 1件)

橋本正俊「平家物語から中世山王縁起を考える」軍記・語り物研究会、2014.4.20、青山学院大学(東京都)

〔図書〕(計 2件)

松尾蒼江、黒田彰、原田敦(他 36名、5番目)『文化現象としての源平盛衰記』笠間書院、2015、総ページ数 728、うち『源平盛衰記』の山王垂迹説話」pp.73-88 を執筆

池上洵一、生井真理子、田中宗博、(他 17名、9番目)『論集 中世・近世説話と説話集』和泉書院、2014、総ページ数 502、うち「山王靈験記と夢記」pp.229-248 を執筆

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

6. 研究組織

(1)研究代表者

橋本 正俊(HASHIMOTO ,
MASATOSHI)
摂南大学・外国語学部・准教授
研究者番号： 30440655

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：